

# 第4回 豊富町まちづくり計画審議会(専門部会)の結果

第5次豊富町まちづくり計画の策定に向けて、3つの専門部会に分かれて第4回審議会を実施し、第3回審議会で話し合った理想のまちを実現するために、「夢に向かう会」としてこれから取り組むべきことや力を入れていきたいことをテーマに話し合いました。また、基本構想(案)の内容や将来像についても意見をいただきました。

第1専門部会 (教育・福祉)  
第2専門部会 (産業)  
第3専門部会 (都市計画・行財政)

2018年6月26日 (火) 13:30～15:30  
2018年6月27日 (水) 13:30～15:30  
2018年7月13日 (金) 13:30～15:30

## 各専門部会全体のまとめ

### 3大資源やまちの魅力を活かしたまちづくり

#### ■3大資源の考え方

- 豊富は、酪農や温泉などの資源を活かして、外からの人がたくさん暮らしているまちになるとよい。
- 温泉や湿原、牛乳しかないのではなく、3大資源以外にも資源として考えられるものを計画で示すと、住民のまちへの愛着にもつながるのではないか。
- 温泉については、移住のきっかけになるので人口増加の要因となる大切な資源である。
- 3大資源のうちの牛乳とサロベツ原野については、他のまちと変わらない資源ではないか。
- 計画では優位性が大事になる。牛乳は他のまちにもあるが、温泉は唯一無二のものである。
- 3大資源の具体的な活用について計画の中で記載が必要である。

#### ■温泉産業

- 温泉へ湯治でたくさんの方が来ているが、受け皿となる施設が整っていないため、たくさん人呼び込むことがまだできていない。施設整備は必要である。
- 温泉の観光振興も大事であるが、湯治や療養への活用も考えるべきである。
- 湯治客と観光客を分けて、それぞれが快適に入浴できるような施設が必要ではないか。
- 全国や海外に豊富温泉の効能はまだ知られていないが、知られたら、何もしなくても人口が増えると思う。
- 利尻などにも温泉があるため、「日本最北の温泉郷」というキャッチではない方がよい。
- 観光ではなく温泉産業とすれば、湯治も含めて産業として重点が置かれるのではないか。
- 湯治による滞在人口が増えれば、移住にもつながるのではないか。職の問題もあるが、人が増えると仕事も増えるのではないか。
- 湯治客は、1か月ほど滞在することも多い。滞在中にスキルを活かして活躍してもらおうとよい。

#### ■観光

- 観光による交流人口が増えると、移住者も増えて定住人口も増えるのではないか。
- 観光については、豊富町単体で考えるものでなく、宗谷管内全体で連携しながら考えていくべきものである。広域観光が交流人口の拡大にもつながるカギになると思う。
- インバウンドの観光客を増やしていくことができるとよい。
- 豊富町は、酪農と観光のまちと言われているが、観光が産業になっていない気がしている。
- 多くの方にまちに長く滞在してもらい、少しでも多くのお金をまちに落としてもらいたい。
- これからは、複合的に観光を底上げしていくために、観光協会だけでなく、飲食店などとも連携して滞在型の観光づくりをしていく必要がある。
- 温泉も湿原も酪農も、全て観光に関わってくるのではないか。温泉はヘルスツーリズムという視点もある。酪農と観光では、ファームステイなど考えられる。
- 陸上競技場でスポーツ合宿をするなど、外から人呼び込むきっかけとなっている。
- 観光としては湿原センターがあるが、特にまちとしてPRしていない。

#### ■酪農

- やはり酪農が基幹産業であり、人口減少を食い止めるための大きな資源である。
- 酪農の新規就農はハードルが高く簡単なことではない。後継者不足などの課題があるため、法人化するしかないのではないか。
- 酪農の人口が減っても、生産量を減らさないように生産額を増やしていくための取組が必要である。道内最大規模の酪農を目指すべきである。
- 酪農は、一戸あたりの規模が大きくなってきており、本来はそこで雇用が生まれるが、機械化が進んでいるため新たな雇用が生まれにくいことが残念である。
- ヘルパーなど、別なかたちで新しい雇用は出てきているが、担い手がいない。
- 都市部の人たちは、農業体験やファームステイをきっかけにまちや酪農について知ってもらい、新規就農や嫁いでくれることにつながるとよい。
- 空き農地に新規で入ってもらうことができるとよい。

#### ■水産業

- 水産業は後継者が少ないが、酪農よりも新規就業のハードルが低いと思われる。
- カキの養殖や北寄貝などの水産業も資源である。

#### ■林業

- 林業は循環の作業になり、そのスパンは70年以上と非常に長い期間となる。
- 林業で地産地消や環境問題の解決などにつながる機会となり、林業が支えている大切なものもあり貴重な資源であるため、3大資源に含めても良いのではないか。

#### ■新たな産業

- 天然ガスや地熱を活用した野菜作りなどの産業が出てくるとよい。そのように新しい産業を興して、どんどん人に入ってきてもらいたい。
- バイオマスは今後進めていってほしい。一番は臭い対策であるが、家畜糞尿のバイオマスを推進してもらいたい。

#### ■雇用

- まちにやりたい仕事があるということが、人口を維持するためのポイントである。
- 3大資源は、観光だけでなく雇用を生むポテンシャルもあるのではないか。
- 学校を統廃合せずに少人数で維持する場合は教師を増やすなど、豊富に必要な職業を募集して人呼び込むことも必要ではないか。
- 全国どこでも回線があればコールセンターの仕事ができるような働き方が当たり前になってくと思う。そういった働き方がこれからの湯治客の新しいモデルになると思う。

#### ■企業誘致

- 企業誘致は、行政としても力を入れてきた。セイコーマートのように、どんどん進出してもらおうことができるとよい。
- セイコーマートの従業員とその家族が多く住むエリアは、他のエリアと比較して人口減少はあまり進まないことも想定される。
- 東京や札幌の企業のリモートオフィスの誘致なども考えられる。

# 第4回 豊富町まちづくり計画審議会(専門部会)の結果

第5次豊富町まちづくり計画の策定に向けて、3つの専門部会に分かれて第4回審議会を実施し、第3回審議会で話し合った理想のまちを実現するために、「夢に向かう会」としてこれから取り組むべきことや力を入れていきたいことをテーマに話し合いました。また、基本構想(案)の内容や将来像についても意見をいただきました。

第1専門部会 (教育・福祉)  
第2専門部会 (産業)  
第3専門部会 (都市計画・行財政)

2018年6月26日 (火) 13:30～15:30  
2018年6月27日 (水) 13:30～15:30  
2018年7月13日 (金) 13:30～15:30

## 各専門部会全体のまとめ

### 支え合いの仕組みづくり

#### ■子育て支援

- ・ファミサポほど大きいシステムでなくても、子育て支援や相談にできる仕組みがあるとよい。
- ・個人で一時的に子どもを預かるなど、行政のサービスでなくても、民間でやっている人もいるため、仕組みとして確立できるとよい。

#### ■高齢者支援

- ・特養など的高齢者施設に入るまではいかないが、少しサポートが必要な高齢者が利用できるような中間的な施設が必要である。
- ・毎食食事をつくってくれたり、集団生活できる施設を年金の範囲内で利用できるとよい。見守りにも、コミュニティづくりにもつながる。
- ・高齢者への虐待を防ぐためにも、高齢者の外とのつながりが必要である。

#### ■住民への支援の仕組みづくり

- ・現状の人口で考えると、個々に対するケアをするために住民のニーズを把握して、どのような生活の支援ができるかを考え、対応していくこともできるのではないかな。
- ・移住者で住民とのつながりがあまりない人たちが、何かあった時に助けを求める窓口が必要である。住み続けたくても住めなくなってしまう。
- ・住み替え先なども個人では探せないため、ケアする仕組みをもってまちづくりをしていくことができるとうい。
- ・空き家をシェアハウスにすることはよいが、そこに暮らしのサポートや相談役になる役割がなければ意味がない。
- ・一つのことに対して、どのくらい選択肢があるかが重要である。小さいまちであっても、子育てや仕事、高齢者の住処などにいくつか選択肢があるとよい。

#### ■町民によるサポート制度

- ・高齢者や男性のちよとした特技を仕事として気軽に頼める仕組みがあるとよい。
- ・社協では、高齢者向けのサポートの仕組みはたくさんあるが、一般住民向けのものはないため必要ではないかな。

### 豊かな暮らしをPR

#### ■暮らしの豊かさ

- ・人口だけでなく、幸福度などを指標にすると良いのではないかな。
- ・価値観や豊かさは人それぞれである。いまは自分のやりたいことができているため、自分は豊かだと感じている。
- ・住民それぞれが幸せと感じて、それを口に出すことができるとよい。幸せに感じていることを共感できる場があると、新たな気づきにもつながるのではないかな。

#### ■移住のメリット

- ・わざわざ移住してきてくれる外からの人にとって、何を求めて豊富に来ているのか、何をPRしていくべきなのか、外からの視点での感覚や意見を知りたい。
- ・まちのよいとことをしっかりと知って、外の人に自慢していけるような町民でありたい。

### 計画書について

#### ■計画書の内容

- ・まずやることは何か、たくさんありすぎるため、重点取組を絞って毎年何に取り組んでいくのかしっかりと示すべきである。
- ・豊富ならではの特徴的な計画にしていすべきである。何に力を入れていくのか、優先順位とそのロードマップがあった方がよい。
- ・漠然と10年間の計画をつくるより、力を入れるべきところをしっかりと示すべきである。
- ・掲載できるのであれば、第4次計画の検証結果(総括)を載せても良いのではないかな。
- ・木の幹に枝葉的に見せていくのもよい。幹の部分は温泉一つか、酪農などもいくつか柱としてあることも考えられる。
- ・実施計画の下に、個別計画がどのようなものか、一例を示すと良い。
- ・ビジョンやミッションは、良いと思う。計画において理念はあるとういので、ここでいうミッションは良いと思う。言い方はどうあれ、理念的なものはあるべきである。

#### ■計画を動かしていくために

- ・実施計画で具体的な施策を示すと思うが、住民も一緒に取り組んでいくことができるとうい。
- ・今後は、計画を実現させていくための話し合いもできるとよい。「住み続けたいまち」がどのようなまちなのか、毎年追跡していくべきではないかな。
- ・ビジョンとミッションについて、しっかりとそこに向かっていくのか確認しながら計画を動かしていくことが必要である。
- ・計画を動かしていく際、行政だけでなく、民間企業や町民も関わっていく必要がある。
- ・計画をつかったあと、多くの町民に情報を共有し、関わってもらう機会が必要である。

#### ■住民に計画書を見てもらうための工夫

- ・生活につながる情報として、電話帳や便利帳のように、当たり前情報(どもの検診情報、高齢者の相談窓口など)でもよいので、困った時の相談窓口などが載っていると良い。
- ・画像を多く入れるのか、プロモーションビデオのようにするのか見てもらう工夫が必要である。
- ・概要版もよいが、もっと親しみを持ってもらう工夫があると良い。イラストをたくさん使ったり、マンガを作成するとよいのではないかな。
- ・完成後に、住民向けの説明会などを行うとういのではないかな。PRの機会が必要である。

#### ■人口指標

- ・人口増を目標にしてまちづくりを進めていくことが必要ではないかな。人口が減ることを想定しながら計画をたてても意味がないのではないかな。
- ・10年後に達成できなくても、人口増加向かってみんなで取り組んでいくという思いや姿勢が大事ではないかな。
- ・全国的にも、自然動態は減少傾向にあるため、増やすのは難しいのではないかな。
- ・理想として人口増を目指してもよいが、その設定をどこにするかが重要である。
- ・人口が減少するにしても、最小限に食い止めることが必要である。
- ・人口減少が進むとまちの維持も難しくなるため、行政の合併などもあるかもしれない。
- ・総人口は減少しても労働人口を維持するなど、視点を変えて考えるのもよいのではないかな。

#### ■その他

- ・まちの予算のうち、町民に分配を考えてもらうと、力をいれていく分野も自然と見えてくるのではないかな。
- ・酪農と観光のまちであるが、予算の分配は約9:1とバランスが悪い。